

1. 概評

全般的に良好と認められる。各項目の数値も、前年度とほぼ同様の傾向となっている。数値が低い項目については、一層の改善を図る。特に最低の数値である自主的な学習については、引き続き課題として取り上げ、学生への働きかけを継続する。

[学生]

授業への取り組み・出席状況は、概ね良好で、シラバスの事前確認も、前期に比べ、数値が改善した。が、自主的な学習面では、前年度から引き続き低い数値であることから、個々の授業での改善を求める。

[授業[内容]]

授業内容については、前年度と同様に、シラバスに則した授業が実施されており、また学生の理解度を考慮した授業運営がなされているものと認められる。

[授業[教え方等]]

教授方法については、概ね良好であるが、板書・OHPなどの使い方については、学生数や教室の規模を考慮した工夫・改善を促す。

[環境・設備等]

学習環境については、良好と認められる。前期に比して、数値も僅かながら改善した。参考資料については、今後も充実した態勢となるよう、図書館と連携して努める。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	4	17	56	9	ほぼ良好の数値で、前期に比して僅かながら数値が改善した。前年度同様、数値の低い科目は、必修科目、資格関連科目の一部で、今後も継続して指導する。
2	3.9	0	0	0	15	42	30	積極的に取り組む学生の姿勢が認められた。特に実習・演習科目を中心に、数値が高い点は、前年度と同様であった。
3	4.2	0	0	0	1	14	72	前年度同様、学生の出席状況は、良好と言える。
4	3.3	0	0	19	36	23	9	特に低い数値の科目の傾向は指摘しにくい。前年度同様、学生の主体性を引き出す取り組みを継続して実施する。
5	3.7	0	0	1	14	57	15	ほぼ良好の数値と言える。前期に比して、僅かながら数値が改善した。低い数値の科目の傾向は、特に指摘できない。
6	3.8	0	1	1	12	39	34	全般的に学生の理解度に応じた授業運営がなされている。
7	4.0	0	0	2	10	22	53	概ね良好である。
8	4.1	0	0	2	4	20	61	概ね良好である。前年度に比して、数値の低い科目の減少が認められた。
9	3.7	0	1	2	15	40	28	ほぼ良好と言えるが、前年度に比して、数値が僅かながら低くなった。受講生の多い科目に、数値が低くなる傾向が認められる。今後も改善を促す。
10	4.0	0	0	1	8	27	51	前年度と同様、全般的に良好と認められる。
11	4.1	0	0	1	8	19	59	前年度と同様、ほぼ良好と認められる。前期に比して、数値が僅かながら改善した。
12	3.6	0	0	1	23	50	13	前期と全く同じ数値で、ほぼ良好と認められるが、参考資料の整備が更に進められるよう、今後実施される図書館アンケートのデータを活用したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

- ・教員、並びに学生に対して、授業改善アンケートへの意識を喚起すると共に、数値が低い項目については、個々の授業で改善が図られるよう、働きかける。

1. 概評

概ね良好な結果となっている。引き続き改善の方策を検討していきたい。

[学生]

4 項目とも学科平均が 3.5 以上であるが、No.1(シラバスの事前確認)と No.4(授業外での自主的な学習)については改善の余地がある。

[授業[内容]]

学生は授業内容を概ね理解できたと評価している。

[授業[教え方等]]

学生は教え方等については概ね満足していると評価している。

[環境・設備等]

学生は学習環境については満足していると評価している。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.6	0	3	8	29	47	21	評価が 3.0 未満の 11 科目すべてが必修科目である。必修科目であっても受講前にシラバスを確認するよう指導を徹底する。
2	3.9	0	0	0	13	42	53	少人数制のスキル科目と特別演習(ゼミ)の評価が高くなっている。
3	4.0	0	0	2	4	32	70	学科平均は 4.0 と高いが、全体平均よりも 0.2 ポイント低い。履修を指名される特別クラスが特に低くなっている。
4	3.5	0	1	13	33	46	15	特別演習(卒論ゼミ)の評価は高いが、平均は 3.5 と 12 項目中最も低い値となっている。
5	3.7	0	0	2	21	62	23	評価が 3.5 未満の 23 科目中、スキル科目が 11 と半数を占めている。
6	4.0	0	0	1	10	38	59	108 科目中過半数の 59 科目で評価が 4 以上となっている。少人数制のスキル科目の評価が高い傾向にある。
7	4.1	0	1	0	11	25	71	ほぼ 3 分の 2 の科目が 4 以上の評価となっている。
8	4.2	0	1	0	6	22	79	12 項目中最も高い評価となっている。ほぼ 4 分の 3 の科目が 4 以上の評価である。
9	3.8	0	0	1	19	42	46	評価が 3.5 未満の科目において履修人数が比較的多い傾向がみられる。
10	4.0	0	0	1	8	45	54	半数の科目で 4.0 以上の評価となっている。
11	4.2	0	0	2	0	22	84	学科平均の 4.2 は 12 項目中最も高い評価となっている。
12	3.6	0	0	3	23	67	15	特別演習(卒論ゼミ)の評価が高く、スキル科目が低い傾向がみられる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・全項目を通して最も評価の低かった「(問 4) 授業外での自主的な学習」については、学生の自律性を養う方策を学科で引き続き検討していきたい。
- ・シラバスの事前確認については平成 19 年度前期に比べると 0.3 ポイント上昇したが、全体的にみるとまだ改善の余地がある。選択科目はもちろんのこと、必修科目においても学生の注意を促したい。
- ・平成 21 年度から Web 履修登録が開始予定であるので、教員に対してもより具体的なシラバスの作成および変更の場合の説明・連絡を徹底するようお願いしていきたい。



1.概評

全体では、3分の2が全体平均同じ、もしくは全体平均を上回っており、学生は概ね授業に満足しているように受け取れる。中間的評価よりやや下回る科目の数も、アンケート実施科目数からすればごく少数であるし、開設科目全体からすると更に、ごくごく少数といえる。

〔学生〕

引き続きシラバスの積極的な活用と、授業外の自主的な学習を促すような工夫を授業の中に盛り込む必要がある。

〔授業〔内容〕〕

学生は、授業内容を理解しているようである。

〔授業〔教え方等〕〕

学生は、説明のしかたや資料・板書等にほぼ満足しているようであるが、個々の授業については各授業担当者に伝わるよう、FDを活用していきたい。

〔環境・設備等〕

学習環境は少人数授業が多いせいか、ほぼ満足しているようである。図書については中間的な評価が多く、更なる充実を図る必要がある。各教員がより積極的に図書館に参考書を推薦するよう働きかけていきたい。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	2	2	14	33	6	ほぼ良好といえるが、引き続きガイダンス等で周知をはかる。特に1年次から活用を習慣付けたい。
2	3.7	0	0	2	18	21	16	授業への積極的な取り組みについては、概ね良好といえる。
3	4.2	0	0	0	2	7	48	出席状況は良好である。
4	3.2	0	1	13	28	13	2	授業外の学習の自主的な取り組みは十分とはいえない。課題の出し方を工夫する等の対処が必要である。
5	3.5	0	0	5	17	29	6	シラバス内容についてはほぼ予想通りといえる。
6	3.7	0	1	3	11	27	15	授業内容は理解できている。
7	3.8	0	0	3	8	23	23	概ね、説明は明快であったといえる。
8	3.9	0	0	3	5	20	29	よく聞き取れているようである。
9	3.7	0	1	1	15	22	18	概ね適切といえるが、個々の授業に対する要望を把握したい。
10	3.8	0	0	1	10	26	20	ほぼ良好で、ほとんどの学生は満足しているといえる。
11	3.9	0	1	3	3	20	30	ほぼ良好。 少人数授業が多いためと思われる。
12	3.4	0	0	4	32	16	5	ほぼ良好のようだが、教員の図書館への図書の推薦を積極的に行うようにしたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

＜今後の方針＞

先に述べた通り、一番の課題は授業外での自主的な学習への取り組み、である。これは以前からの課題でもあるが、引き続き、授業内での課題の出し方の工夫や、博物館展覧会やセミナーの告知、授業の一環としての活用等によって、授業外での学習意欲を喚起していく。(平成 20 年度本学が東京国立博物館キャンパスメンバーズ会員になったことも大いに活用していきたい。)

この他、シラバスについては引き続き活用を促すとともに、1 年次から活用を習慣付けていきたい。参考図書については、更に教員が図書の推薦を積極的に行うなどして、拡充を目指す。

1.概評

全体としては良好であるといえるが、前回よりも学科平均値が若干低下する傾向がみられたため、改善が必要と考える。

[学生]

受講前にシラバスを確認していない学生の割合が高めであることから、クラス主任をはじめとする教員に確認の徹底を要請する。また、学生の授業出席率は非常に高い上、授業に積極的に取り組んだ学生が多かった。授業外での自主的な学習をする学生が少ない点に関しては、授業の課題やレポートなどに取り組んでいても、これらを自主学習ととらえていないものと考えられる。

[授業[内容]]

授業がシラバスで予想した内容と異なるとする評価もあったため、各教員にシラバスと授業内容の間に齟齬がないかの確認を要請する。

[授業[教え方等]]

授業の理解度、教員の説明の明快さ、教員の話の聞き取りやすさは明快であったと考えられるが、前回よりも若干学科平均値が低下する傾向がみられたため、教員間で問題を共有し、改善をはかる。視聴覚機材の使い方や配付資料・教材は総じて効果的であったと考えられる。

[環境・設備等]

学習環境は概ね良好であったが、評価の低い授業もみられたため、問題点を確認し改善をはかる。図書館資料に関しては特に不足しているという評価ではなかったが、引き続き充実をはかるよう要請する。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.3	0	0	5	5	9	1	学科平均が前回より0.3ポイント低下した。引き続きクラス主任をはじめとする担当教員に注意を促してもらう。
2	3.6	0	0	0	6	9	5	授業に積極的に取り組んでいる割合は高いが、0.4ポイント低下したため、担当教員に注意を促してもらう。
3	4.2	0	0	0	1	2	17	前回同様、授業への出席率は非常に高い。
4	3.1	0	0	9	10	1	0	授業の課題やレポートなどには積極的に取り組んでいるが、これらを自主学習と捉えていないと考えられる。
5	3.4	0	0	3	9	6	2	前回よりややポイントが減少しているため、各教員にシラバス内容と授業内容の齟齬がないか確認を要請する。
6	3.4	1	0	1	8	9	1	授業の理解度は概ね高いと考えられる。
7	3.6	0	1	1	5	7	6	教員の説明は概ね明快であったと考えられる。
8	3.9	0	0	1	4	6	9	教員の話はよく聞き取れていると考えられる。
9	3.6	0	1	2	6	5	6	板書・OHP・PowerPoint等の使い方は概ね適切であったと考えられる。
10	3.8	0	0	1	3	10	6	配付資料・教材等は効果的であったと考えられる。
11	3.8	0	2	0	1	6	11	前回より学科平均が0.3ポイント低下した。人数・教室規模を良好に保つよう、関係部署に要請する。
12	3.3	0	0	2	15	3	0	図書が不足しているわけではないが、充分とはいえないと考えられる。前回より0.3ポイント低下した。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

全体としては良好な状況にはあるが、前回の調査結果と比べて全項目の評価が若干ではあるが否定的な方向に移動していた。0.4 ポイント以上低下した項目は、「授業に積極的に取り組んだ」であり、これ以外の項目に関しても若干ポイントが低下したため、学科内全教員で問題を共有し、改善を図る。

授業の教え方等については、概ね明快でわかりやすく、聞き取りやすいほか、授業の理解度も良好と評価されているが、前回よりも若干ポイントが低下する傾向がみられたため、この点に関しても学科内全教員で問題を共有し、改善を図る。

1. 概評

昨年度後期と比較した場合、全体的に大きく評価を下げた項目はない。しかしながら科目によっては全体平均・学科平均よりも低い評価を受けているものがあり、個々に改善が必要であると思われる。

[学生]

出席状況及び授業に取り組む姿勢(積極性)は大変よい。資格関連科目が多く開講せれており、目的意識の高い学生が受講しているためと考えられる。シラバスの事前確認と授業外の自主学習の評価があまり高くないため、ガイダンス等により、大学生らしい積極的な受講態度を涵養していく必要がある。

[授業[内容]]

実技・実習・演習系の評価が高い。理論的・抽象的な展開の多い講義科目については、平均並みである。平成18年度後期と比較した場合、4.0以上にマークした学生の割合が減り、3.5以上4.0未満にマークした学生の割合が増加した。その一方、2.0以上3.5未満にマークした学生の割合も減っている。このことから、概ね満足している学生が多いものと考えられる。

[授業[教え方等]]

全体平均に比べて、高い評価を得ている科目が多い。説明の明快性、話の聞き取りやすさ、配布資料・教材の適切性などいずれも高い評価を得ている。

[環境・設備等]

全学的に改善方向にあるにも関わらず、評価が伸び悩んでいるように思われる。評価者である学生の側の意識の高まりの反映とも考えられる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.2	0	1	3	34	9	0	十分に確認した学生がいなかったことは問題であるが、本学科の場合、資格必修科目が多いため、このような傾向があるものと考えられる。
2	3.8	0	0	0	6	25	16	積極的に取り組んでいると自己評価している学生が多い。学生・教員相互のはたらきかけにより、この傾向を維持していきたい。
3	4.3	0	0	0	1	2	44	出席状況は極めてよい。資格必修以外の科目についても良好な出席状況であることは評価できる。
4	3.3	0	0	7	29	9	2	授業外の自主学習を十分にした学生が少ない。課題の出し方・量など教員側の工夫も求められる点であろう。
5	3.4	0	0	3	29	13	2	シラバスの事前確認が十分とは言えないため、中程度の評価にとどまっているものと思われる。教務部委員及び個々の授業担当者からの働きかけも重要である。
6	3.7	0	0	0	13	26	8	授業の理解度は高めである。特に演習・実習・実技系の評価は高い傾向にある。講義系科目についても3.5以上の評価を得ているものが多かった。
7	3.8	0	0	2	10	14	21	説明の明快性について、全体的に高い評価を得ているが、個別の科目について、平均を下回っている科目がある。個別に結果を返し、改善を促す必要がある。
8	3.9	0	0	0	9	11	27	話の聞き取りやすさについての評価は、概ね高い。マイクの設置等、教室環境の整備効果が表れているためと考えられる。
9	3.6	0	0	6	10	21	10	大教室で行う授業、もともと板書を行わない屋外の授業について評価がやや低めであったが、全体的には高い評価を得られている。
10	3.7	0	0	2	8	27	10	配布資料・教材への評価は概ね高い。教科書を使用していない科目についても教員の工夫がみられ、この傾向を維持していきたい。
11	3.7	0	0	2	11	23	11	受講人数が多く、大教室で行う授業の評価が若干低めである。なるべく広い教室を確保するなどの改善が必要である。
12	3.3	0	0	2	38	6	1	評価が低めであるので、本当に図書館に必要な資料が揃っていないのか、図書館の活用の仕方に対するガイダンス不足しているのかを見極める必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

(1) 今後の方針

- ①シラバスの事前確認の徹底(教務部委員・各授業担当者)
- ②個々の授業について、自己学習を促すような課題の工夫(各授業担当者)
- ③図書館の活用の仕方についてのガイダンスの実施(図書館の協力を仰ぐ)
- ④設備図書の充実(各授業担当者)

(2) 教務部・大学への要望等

本学科ではこれまで、アンケート結果について個々の講義名・評価の公開の実施を主張してきたが、それが困難である場合、個々の授業担当者一人ひとりに対して、結果を返すべきである。大学によっては、個別に結果を返す際にレーダーチャート化して改善すべき点を明確に示したり、出された結果に対する教員個人のコメントを提出させたりしているところもある。学科としての全体的な方針を考える資料として活用することも重要だが、授業改善アンケートが個々の教員の教授能力向上のために活用されることこそがもっとも重要であると思われる。

1.概評

全体的に見て、学生の自分自身に対する評価はやや低く、教員の授業内容や方法に対する評価は高いという、対照的な結果となっている。ただし前者は、学生が自分たちの授業参加の態度を真剣に評価していることの現われであり、好感がもてる。

19 年度前期と比べると、アンケート実施科目が前期の 73 科目から 45 科目へと大幅に減少した。色々な理由が考えられるが、多少気がかりな傾向である。

[学生]

全体平均と比べて、「シラバスの事前確認」と「授業外での自主的な学習」がかなり悪い評価となっている。学生自身が自分たちの授業時間外での学習が足りないと評価しているわけであり、今後の履修指導の大きなポイントである。

[授業[内容]]

学生の評価は比較的高い。本学科で実施している、少人数の授業が良い効果を出しているのではないかと考えられる。

[授業[教え方等]]

多くの項目で、全体平均を上回る良い評価が出ており、学生の満足度は高いものと思われる。

[環境・設備等]

人数・教室の広さ等の学習環境については満足しているが、図書館の参考書の整備状況については必ずしも満足していない結果が出ている。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.1	0	1	16	15	12	1	全体平均 3.4 に対して低い評価が出ており、相変わらずシラバスが活用されていないことがわかる。引き続き指導を行いたい。
2	3.8	0	0	0	7	24	14	全体平均とほぼ同じ評価であるが、高い値であり、学生が授業に積極的に参加しようとしている姿勢がうかがわれる。
3	4.0	0	0	1	3	13	28	本学で出席が厳しく義務づけられていることと、この結果を合わせると、この結果は当然ではないかと思える。ただし、全体平均より低い評価が出ている。
4	3.4	0	1	5	19	17	3	前年度よりは改善されたが、依然低い値である。引き続き、授業外での学習の重要性を学生に知らせていきたい。
5	3.5	0	0	1	17	25	2	全体平均と同じで、ほぼ平均的な評価となっている。
6	3.7	0	0	1	9	20	15	これも全体平均と同じで、大きな特徴はみられない。
7	4.0	0	0	0	6	15	24	全体平均 3.9 より少し高く、3.0 未満の評価を受けた科目がなかったことから、学生は授業での説明がかなり明快であったと感じているようである。
8	4.0	0	0	0	6	10	29	これも全体平均 4.0 と同じ値で、先生方の授業中の努力がうかがわれる。
9	3.8	0	0	0	12	21	12	全体平均は 3.7 なので、学生は教員の授業方法におおむね満足していると考えられる。
10	3.9	0	0	0	4	25	16	全体平均 3.8 より少し高く、配布資料や教材についても学生の満足度は高いものと思われる。
11	4.0	0	0	0	0	24	21	全体平均 3.9 よりやや高く、特にすべての科目で 3.5 以上の評価が出ているので、学習環境に対する学生の満足度はかなり高いものと思われる。
12	3.4	0	0	1	26	15	3	全体平均と同じだが、低い値が出ているのが気になる。この項目については、別途調査が行われるということなので、その結果にも注目したい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

- ☆ 授業の内容や教え方に関する項目(質問 5～10)で、良い評価(4.0 以上)を受けた科目群とあまり良くない評価(3.5 未満)を受けた科目群の間で受講生数を比較したところ、19 年度前期と同様、良い評価を得た科目群の平均受講生数は良くない評価の科目の平均受講生数より少ないという結果が出た。これは明らかに、少人数クラスが学生から高い評価を得ることを示している。本学科では、今後も可能な限り少人数教育を実施したいと考えており、教務部、大学においても理解をいただきたい。
- ☆ クラス人数と同様、視聴覚教材やパソコンを用いた授業に対する学生たちの満足度も非常に高い。今後、さらに教室の視聴覚化やパソコン教室の増設を強く希望する。
- ☆ 質問項目のうち、授業に関するもの(5 番～10 番)をもっとふくらませるのが良いと思う。逆に、3 番(出席状況の自己評価)などは、本学では当り前の結果が出るので、やめても良いのではないかと思う。
- ☆ 平成 19 年度前期と比べ、アンケート実施科目(原則、受講人数 10 人以上のすべての科目で実施)の数が、前期の 73 科目から 45 科目へと大幅に減少した。開講科目数はそれほど大きく減少していないので、考えられる理由として、①受講者が 10 人未満の科目が増加した、②教員がアンケートを実施しなかった科目が多かった、などがある。いずれも良い傾向とは言えないので、今後このような点についても注意を払いたい。

1.概評

〔学生〕

授業に対する積極的な取り組み、出席状況について、高い評価が出ている。シラバスの受講前の確認、授業外での自主的学習についても、前期より評価が向上している。学生は、学習態度・出席状況ともに良好で、将来幼稚園教諭や小学校教諭、保育士になるという確固とした希望をもって、真摯に授業に取り組んでいる。

〔授業〔内容〕〕

授業〔内容〕に関する設問についての評価はすべて、前期よりも高い評価が出ている。教育に関する幅広い教養を身に付けるための科目、幼稚園・小学校教諭、保育士となるための保育・教育理論や実践に関する科目がバランスよく配置され、理論的な面と実践的な面の両面から教員としての資質能力を向上させるようにプログラムされている。

〔授業〔教え方等〕〕

授業〔教え方等〕に関する設問についての評価はすべて前期よりも高い評価が出ている。説明の明快さ、授業具体的事例に基づいた教え方、適切な配付資料や教材、または視聴覚機器を駆使した教え方について、学生からの良い評価を受けている。

〔環境・設備等〕

環境・設備等に関する設問についての評価はすべて前期よりも高い評価が出ている。平成19年度から、80年館5階に移動したので、学習環境がかなり改善されている。また、図書館についての評価も向上してきている。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.3	0	1	8	20	11	2	免許資格取得のための必修専門科目が多いため、シラバスについての意識が低かったが、改善がみられつつある。引き続き、UP-SWOHAの利用等の呼びかけをしていく。
2	4.2	0	0	0	0	10	32	良好な評価であり、前期からさらに向上がみられる。学生は、授業態度良好で、授業に積極的に取り組んでいる。今後もこの状態をさらに発展させていくよう努める。
3	4.6	0	0	0	0	0	42	出席状況は、全体的に極めて良好である。この状態を今後も継続していけるよう支援する。
4	3.8	0	0	0	5	25	12	改善の余地がある項目であったが、評価は前期に比べて、向上の傾向がみられる。引き続き、学科の基礎科目等で、具体的に自主的な学習の進め方について指導していく。
5	3.6	0	1	0	12	25	4	シラバス確認の不十分さと連動している項目であるが、改善の傾向がみられる。授業はおおむねシラバスに即しているため、引き続きシラバス確認の習慣づけが必要である。
6	4.0	0	0	0	3	14	25	前期の評価から向上し、良好な評価となっている。基礎的知識を着実に定着させ、その上で専門的知識を追究する姿勢を今後とも育てていく。
7	4.1	0	0	1	4	10	27	前期の評価から向上し、良好な評価となっている。今後とも引き続き、教育機器の使用その他、授業改善を工夫していく。
8	4.1	0	0	0	4	11	27	良好な評価を得ており、前期からさらに向上がみられる。今後とも引き続き、授業の聞き取りやすさについて工夫していく。
9	3.9	0	0	0	5	19	18	おおむね良好な評価を得ており、改善の傾向がみられる。今後とも引き続き、板書、教育機器の活用について、授業改善を工夫していく。
10	4.1	0	0	0	1	14	27	前期の評価から向上し、良好な評価となっている。今後とも引き続き、効果的な配付資料、教材の工夫を行っていく。
11	4.1	0	0	0	5	8	29	良好な評価を得ており、前期からさらに向上がみられる。80年館の学習環境に満足度が高い。
12	3.7	0	0	0	9	23	10	前期よりも改善がみられる。参考図書の充実については、引き続き、教員が積極的に協力していくことが必要である。また、図書館利用についての授業時の呼びかけも必要である。

3. 今後の方針, 教務部・大学への要望等

初等教育学科は, 平成 19 年度に学科の場所が大学 5 号館から80年館 5 階に移動となり, 学習環境も整備され, 学生の満足度も高くなっている。

しかしながら, 学科定員が, 平成20年度以降50名から100名に増加し, 今後, 年々学科の総学生数が増加していく。現在割り当てられている教室数とスペースは, 今後の学科規模や授業の実態から考えると、最低限度のスペースである。

また, 80 年館は窓が大きく開かず換気を換気扇に頼っているため, 空気がよどみやすい傾向にある。教室の収容人数ぎりぎり一杯の学生を収容する授業が増えてきており, 学習環境についての学生の評価が今後低下してくることが予想される。

教員養成を主目的とする本学科においては, クラスルームを中心とした学科運営は教員の資質能力の育成という面から見て, 重要な意味をもっており, 授業における十分なスペースの確保も重要な意味をもっている。以上の点から, 十分な教室数と授業スペースの確保について、ご配慮願いたい。

1.概評

全体的に授業は良好な状態にあるが、一部の講義科目では、授業の内容を理解できない傾向にある。これらの科目は理系の科目であり、学科の基礎的な科目も含まれるので、さらに少人数での授業を行うなど、理解度を高めるよう検討が必要である。

〔学生〕

授業には欠席をしないで積極的に取り組んでいる姿勢が認められるが、授業外で自主的な学習をしていないと答えた科目は、講義科目に多い。課題を出すなど、演習科目と同様に講義科目についても自主的な学習を促していく。

〔授業〔内容〕〕

授業内容が理解できない傾向にある科目は理系の科目である。特に理解度が低い平均点2.5未満の科目については、授業内容の見直しや教材、板書などの教え方の工夫の検討と、自主的学習に役立つような参考図書を充実させることが必要である。

〔授業〔教え方等〕〕

教え方は全体的には良好な傾向にあるが、理系の科目の一部では、工夫する余地がある。特に受講者の人数が多い場合には、学力の差が大きくなることから、学力に応じたクラス分けを行い、理解度を高めるよう検討が必要である。

〔環境・設備等〕

学習環境は概ね適切であるが、評価が低い科目の教室は、机の大きさが適切でないなどの原因が考えられるので、改善の必要がある。また、参考書が図書館に充実しているとは言えず、特に授業内容の理解が低い科目にその傾向があることから、推薦図書を奨励していく。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.5	0	0	10	44	46	11	受講前にシラバスをあまり確認していない傾向がみられるが、全学平均3.4よりはやや良好である。
2	3.9	0	0	0	24	39	51	評価は4以上が最も多く、学生は積極的に授業に取り組んでいる姿勢がみられる。特に演習科目ではその傾向が強い。
3	4.0	0	0	0	10	34	67	出席状況は4以上が最も多く、学科の平均値は4.0であり良好な傾向にある。中でも演習科目は、出席が良好である。
4	3.6	0	1	11	38	29	32	講義科目では授業外で自主的な学習をしない傾向にあるため、課題等を出して自主的な学習を促していく。
5	3.6	0	0	3	36	58	14	シラバスは全体的に予想通りの傾向にあると答えた学生が多いが、記載内容の工夫も必要である。
6	3.7	0	1	4	25	57	24	授業の理解度が2.5未満の1科目を含み、評価が低めの科目はいずれも理系科目である。得意な学生に対して授業方法を工夫する必要がある。
7	3.8	0	1	5	20	45	40	全体的には「説明は明快」と答える傾向にあるが、不明快と答えた2.5未満は理系の1科目である。学力の差があり、指導は難しいが、さらにわかりやすい授業方法の検討が必要である。
8	3.9	0	1	4	14	43	49	全体的には授業は聞き取れる傾向にあるが、聞き取れないと答えた2.5未満は1科目である。マイクなどの機器の確認と合わせて授業方法の工夫が必要である。
9	3.6	0	1	1	35	48	26	板書や教育機器の使い方は概ね適切な傾向にあるが、評価の低い科目では授業を理解しにくい傾向にあり、これらの使い方を検討する必要がある。
10	3.7	0	1	2	29	54	25	配布資料は適切な傾向にあるが、授業内容が理解できない学生は、不適切と答える傾向にあるため、理解度の低い科目では教材等の検討も必要である。
11	3.8	0	1	3	20	46	41	学習環境は全体的には適切な科目が多かったが、2.5未満の1科目については、適切な学習環境になるよう対応したい。
12	3.4	0	0	5	71	29	6	参考書は科目によっては図書館にはあまり揃っていない傾向が見られる。図書が充実していないと評されている中には授業の理解度が低い科目も含まれることから、自主的学習促進のため推薦図書を奨励していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

1) 今後の方針

講義科目、特に理系科目の理解度が低く、学生の満足度も低い様子が認められる。その一つの原因としては、学生数の問題が考えられる。受講生の多い科目は、授業の内容を理解しにくい環境にあるといえる。学力レベルによるクラス分け、少人数の授業を行うなど、きめ細かい対応が必要である。平成19年度前期は、入学時の基礎学力テストをもとに、理系の基礎科目の一つを3人の教員で担当し、授業改善アンケートの結果から授業の理解度が上がっている傾向が認められた。しかしながら、現在の入試の形態では、理系が苦手でも入学できるため、授業内容を理解できない学生がさらに増える傾向は避けられないものとする。また、19年度から建築学コースで導入した JABEE 認定プログラムにおいては、一定の学力を確保する必要がある。したがって、現在行っている学力不足の学生に対するサポート体制を維持強化することが重要な課題である。

2) 教務部への要望

授業に積極的に取り組まない学生が「授業が理解できない」、「説明が不明快」などと不満を訴える傾向が認められる。このようなアンケート結果に対してどう対応していくのかを検討する必要がある。

また、現在授業担当者に届くアンケート結果は集計された数字データのみであり、そこからの読み取りは教員個人の工夫に任せられている。しかしながら、ヒストグラムなど最小限のグラフ化処理が済んでいれば、より結果を利用しやすくなり、授業改善が進むことが期待されるので、検討いただきたい。

3) 大学への要望

授業の理解度を上げるには少人数での授業を行う必要がある。演習系の科目では少人数の授業が多いが、理系講義科目では受講生が多いため授業を理解しにくい環境にある。1)で述べたように理系の基礎科目を今年度、学力レベルによるクラス分けと少人数の授業を試みた結果、授業の理解度が上がっているようである。今後は、このような授業を増やす必要がある。

また、授業方法としてのパワーポイントやビデオなど、視覚的な教材の工夫により学生の理解度を向上させることも考えられるので、スクリーンやプロジェクターなど設備環境の整備とともに、視聴覚教材開発のための教員向けセミナーなども望まれる。

このほか、受講生が多く、質問しにくい環境にある一部の授業では、一昨年度から昭和コミュニティや新しいシステム UPSHOWA を利用したブログ形式のQ&Aを検討しているが、いまだ実施できない状況にある。授業の質問を学生とメールでやりとりするのは、授業担当者の負担が大きい。そのため受講者を対象にしたブログを始められる環境を整えていただきたい。

さらに、一部の視聴覚教室など、教室環境の不備により評価が低いと思われるものは、かねてより改善要望を出しているものであるため、早急に対応をお願いしたい。

1. 概評

全体としては良好である。現状の評価を維持し、さらに向上させるよう改善に努めることが重要である。

[学生]

出席状況、授業へのとりくみも良好である。今後は自主学習にも積極的にとりくむよう、支援することが必要である。

[授業[内容]]

必修科目が多いにもかかわらず、授業をおおむね理解しているとの評価である。今後も学生の努力を促すことが必要である。

[授業[教え方等]]

おおむね良好である。特にマイク設備が徐々に整い、聞き取りやすさでは前回と比べ改善された。しかし、板書、OHP等については不満の声もある。この点については、今後の検討課題である。

[環境・設備等]

図書についても評価は徐々に改善されている。今後は、図書館アンケート等を通じてより一層の充実を図ることが必要である。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.0	1	3	29	39	4	1	評価の低い科目は、4年前期の必修科目と国家試験対策講座であり、評価の高い科目は選択科目であった。必修科目では目的が明確であるため、シラバスの確認を怠りがちであるが、到達目標を確認するためにもシラバスの活用を促すことが必要である。
2	3.8	0	0	0	12	42	23	授業への取り組みは良好であった。今後も維持すべく努力する。
3	4.5	0	0	0	0	4	73	出席状況は極めて良好であった。今後も維持すべく努力する。
4	3.2	0	1	13	45	18	0	中間の評価が非常に多いことから、自主学習とはまとまった時間をとらずとも、生じた疑問を解決することから始められることを理解させることも必要である。
5	3.3	0	0	4	47	26	0	中間の評価が多かったことから、シラバスの確認を怠っていたことが伺える。授業目標を明確にし、きちんと評価できる態勢を整えることが必要である。
6	3.5	0	2	4	23	37	11	前年度に比べ、低い評価が減っており、今後も維持、改善に努める。
7	3.7	0	2	6	16	33	20	授業はおおむね明快であるが、一層の改善に努める。
8	3.8	0	0	4	21	22	30	マイク等の整備が順次行われ、聞き取りやすくなったとの評価である。今後も維持改善を図る。
9	3.5	0	1	7	29	28	12	板書、OHP等について、おおむね良好であるとの評価であったが、中間の評価も多く、一層の改善に努める。
10	3.6	0	0	4	20	36	17	資料、教材等について、おおむね良好であった。なお一層の改善に努める。
11	3.8	0	0	2	19	32	24	学習環境は、ほぼ良好であった。今後も維持、改善に努める。
12	3.3	0	0	3	47	26	1	図書について、中間の評価が多かった。図書館については今後実施されるアンケートにより、改善が図られることを期待する。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

●今後の方針

本学科は資格関連必修科目が多いことが特徴である。また栄養士の資格は全員が必修である。

授業の理解度が資格取得に直接影響するため、学生は非常に積極的に授業に参加し、意欲的に取り組んでいる。一方、履修科目に選択の余地が少ないため、シラバスの確認を怠りがちである。授業の到達目標をきちんと理解することで、授業内容の理解も深まり、また、自主学習にも取り組みやすくなると考えられ、シラバスの確認は随時促す必要がある。

授業運営等が、学生の授業理解度と相関する可能性は否定できないため、教員側も常に真摯に評価を受け止める必要がある。

現時点での評価はおおむね良好であるが、この状態が継続し、さらに向上するよう、改善に努める。

●要望

図書館の整備について、アンケートの実施を希望する。

また、国家試験対策講座、臨地実習事前事後の指導など、多人数授業の場合に、ID カードによる出席確認の導入を要望する。

1.概評

大学全体平均と本学科平均を比較すると、no.3,no.8 でやや劣っているものの、他の項目ではすべて本学科が同等もしくは上まわっている。また平成 19 年度前期と後期を比較すると、no.3 と no.12 で評価が下がったが、他の項目ではすべて評価が上がった。

[学生]

シラバスの確認は比較的よく行われているようである。出席状況の評価はやや落ちたが、さほどの変化ではなく、おむね良いと評価しているようである。授業外での自主的学習については評価が低い科目がかなり見られるものの、前期と比べると、かなり改善しているものと見られる。

[授業[内容]]

シラバスと授業内容との違いを指摘する評価が若干見られるが、大きな問題はないようである。授業内容を理解できなかったかとの質問に対し、一部の資格関連科目が低い評価を受けている。学生の理解力に応じたいっそうの授業の工夫が必要である。

[授業[教え方等]]

話が聞き取れたかとの質問のみ大学全体の評価を下回っているが、全体に前期に比べて改善されているものと思われる。

[環境・設備等]

一部の多人数での授業について低い評価が見られる。また、建築学、図書館学などの資格科目について参考書等の不足を感じているようである。教員側からいっそう積極的に図書館に対してリクエストすることが必要である。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	1	2	4 0	4 0	1 8	シラバスの確認は良くなされている。前期に比べてさらに改善されているが、これは当然かもしれない。
2	3.9	0	0	0	2 1	3 8	4 2	積極的に取り組んだと評価する学生が多い。このまま推移を見たい。
3	4.1	0	0	0	4	1 6	8 1	出席についての自己評価は前期に比べてやや下がった。前期の評価が 4.4 と高すぎたこともあろう。
4	3.5	0	1	1 5	4 5	2 6	1 5	他の項目と比べて評価が低い。資格系の科目に評価が低いものが多く、適切な課題を課すなどの検討が必要のようである。
5	3.6	0	0	3	3 3	4 7	1 8	シラバスをどの程度確認できているのかがまず問題のようである。同時に教員側は誤解されないシラバスを書くことに努めるようにしたい。
6	3.8	0	0	4	2 6	4 1	3 0	前期と比べると改善されている。授業内容が理解できなかったとされた科目は、やはり資格関係のものが多く、その中には学部学生にまじって受講する科目も多く、短大生への配慮も必要だが、授業の進め方のむずかしさも感じる。
7	3.9	0	0	2	2 0	3 9	4 0	教員の説明についてはかなり改善されている。このまま推移を見たい。
8	3.9	0	0	3	1 0	3 8	5 0	教員の話が聞き取れていたかについて、大学全体平均をやや下回ったが、大きな差ではない。このまま推移を見たい。
9	3.8	0	0	6	2 4	4 1	3 0	プレゼンテーションについては前期より改善されており、大きな問題はない。
10	3.8	0	0	2	2 1	4 4	3 4	教材については教員がそれぞれ工夫しており、評価も大学全体と同レベルである。
11	4.0	0	0	1	1 1	3 9	5 0	学習環境についても特に問題はない。ただ多人数での授業には不満の声がある。これは大学全体の問題であろう。
12	3.4	0	0	2	4 8	4 5	6	やや満足度が下がった。後期になって学習が進むほど評価が低くなるのは当然でもある。基本的な図書についてはさらに購入の希望を出していくようにしたい。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

前期と比べると全体的に学生たちの評価は上がっている。その評価を受け止め、授業運営の参考にしていきたい。

毎期のことながら、多くの学生がまじめに答える中で、すべての問いに同じ点を付ける学生の存在がかなりあり、中にはすべての設問に最低点を付ける学生もある。どれだけ真の評価になっているかについては次第に疑問を感じるが多くなった。自由記述欄に記述する学生が初期の頃に比べて断然少なくなっていることは、この評価方式が有効でなくなっていることを示すものであろう。

学科全体の評価結果に一喜一憂するようなコメントを付けることにもやや疑問を感じる。授業評価アンケートを根本的に見直すべき時期であると同時に、アンケート報告書も見直すべきであろう。

1.概評

「出席状況」以外は、いずれも全体平均よりも学科平均が低く、学生は授業に対して、厳しく評価しているようだ。

[学生]

栄養士免許の他、栄養教諭、家庭科教諭、フードスペシャリスト等の資格取得という目的意識をしっかり持ち、勉学に励んでおり、出席も良好である。

各教科ごとに、課題やレポート提出が課せられており、授業時間外にもかなりの時間を使い勉強しているのだが、その学習を自主的学習にとらえておらず、自主的学習の評価が低かったと思われる。特に講義科目において自主的学習を促す必要があると思われる。

[授業[内容]]

学生の理解度はおおむね良好であるが、科目による差も生じている。学生の得手不得手や学生間の理解力の差も踏まえ、授業担当者のさらなる取り組みに期待する。

[授業[教え方等]]

教材、資料、power point 等を用いた授業への取り組みが評価され、おおむね良好である。ただ実験科目において、「よく聞き取れたか」の項目に、低い評価を受けた科目もあり、実験室でのマイク使用を促すなど、さらなる工夫、改善をはかりたい。

[環境・設備等]

教室等については、おおむね良好との評価はあるが、一部教室、実験・実習室によっては、十分なスペースを確保できていない現状がある。また、参考図書については、授業担当者が必要な図書の確認を行い、さらなる整備充実に向け、図書館へ働きかけていく必要がある。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	2.9	0	2	32	23	0	0	資格関連の必修科目が多いためと考えられる。 オリエンテーション、HR でさらに学生の気持ちを換気する。
2	3.7	0	0	0	12	33	12	科目、クラスによりかなりの差が生じている。
3	4.3	0	0	0	2	2	53	全体的には出席状況は良好。 一部学生には個別に指導を実施。
4	3.2	0	1	9	32	14	1	実験・実習科目はレポート作成などもあり、ポイントは高いが、講義科目において低い科目もあり、自主的学習を促す工夫を実践。
5	3.3	0	0	1	45	11	0	ほぼ予想通りと評価。
6	3.4	0	0	4	19	31	3	科目、クラスにより差が生じている。 理解度の低い学生には個別対応を実施。
7	3.5	0	0	6	14	27	10	ほぼ明快と評価。
8	3.6	0	0	3	15	22	17	実験の授業において低い評価を受けた科目もあり、教室の広さによってはマイク使用の工夫も必要。
9	3.4	0	0	4	20	26	7	おおむね良好の評価。 同じ科目でもクラスによるバラツキが見られるため、さらなる工夫を実践。
10	3.5	0	0	2	19	29	7	ほぼ良好の評価。
11	3.6	0	0	0	11	32	14	ほぼ良好の評価。
12	3.4	0	0	1	34	21	1	自主的学習を促すためにも、さらなる図書の充実整備が望まれる。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

今後の方針

- ・ 学生の能力、理解度の二極化のみならず、生活態度や精神面においても二極化してきており、授業の進め方が難しくなっている。理解できない学生や、欠席の多い学生には個別に対応していく方法を講じたいと考える。
- ・ 本学科は、必修科目が多いため、シラバスの事前確認率が低かった。今後は学期始めのオリエンテーションや HR を活用し、指導を行いたい。

教務部・大学への要望

- ・ 学生の興味、関心を引き、理解度を高めていくためにも、できるだけ視覚的な教材を用いたいと考える。そのため各教室、各実験実習室への視聴覚設備の充実を切に希望する。

1.概評

[学生]

本学科の学生の特徴である、勤勉さ・誠実さが個々の結果にも示唆されている。学生の多くは将来教職を希望しており、その意識の高さが、授業への前向きな態度として表出している。積極的に子どもと接するボランティア活動に参加し、経験を積む学生も多く、授業外の自主的な学習態度も体得している。

[授業[内容]]

前期と同様に、肯定的評価を学生から受けている。免許・資格の取得のための履修科目がかなり多いが、小学校と幼稚園の教師に必要な理論と実践に基づくカリキュラムが充実している。

[授業[教え方等]]

各授業は、学生の理解度を踏まえ、内容は多岐に渡り、わかりやすいと高い評価を得ている。

[環境・設備等]

80年館に移転後は、概ね快適であると評価を得ている。

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.1	0	0	16	15	4	2	前期よりシラバスを確認する学生が増加している。更にガイダンス等で告知し、学生の意識を高めたい。
2	4.1	0	0	0	0	9	28	学生は授業に対して、かなり積極的に取り組んでおり、前向きな姿勢が見られる。
3	4.4	0	0	0	0	1	36	出席率はかなり高く、学生が真面目に取り組んでいる結果と言える。
4	3.8	0	0	0	6	23	8	授業外でも自主的な学習をする学生は増えている。
5	3.5	0	0	2	18	13	4	前期同様、シラバスを確認した学生には、授業は概ね予想に即した内容であったと考える。
6	3.9	0	0	0	4	13	20	授業の理解については、かなり良好な評価を得ている。
7	4.0	0	0	3	2	11	21	授業中の説明については、かなり高い評価を得ている。
8	4.1	0	0	1	2	10	24	授業中の聞き取りについては、かなり優良な評価が継続している。
9	3.9	0	0	2	3	17	15	板書・OHP・PowerPoint等の使用については、各授業の内容により異なるので、一概に評価することは困難であるが、評価を得ている。
10	4.0	0	0	1	3	12	21	授業資料については、各授業の内容により異なるので、一概に評価することは困難であるが、概して良好な評価を得ている。
11	4.0	0	0	1	2	14	20	学習環境について、満足度は高いものの、前期より評価は若干下がっている。
12	3.6	0	0	0	9	26	2	参考図書については、ある程度の満足を示している。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

「今後の方針」

子ども教育学科としての最後の年度を迎え、学生には、学業面と精神面でも継続的サポートを行っている。その結果、学生は、教員免許や保育士免許の取得、卒業に向けて、着実に励んでいる。今後は、学生が誇りを持って、子ども教育学科の卒業生として巣立ってもらえるよう、更にサポート体制を強化していきたい。

「大学への要望」

平成 19 年度後期に振り当てられた教室の中には、収容可能人数一杯だったものがあり、学習環境の質的問題が、講義への評価にも関連していると考えられる。よって、今後は(初等教育学科にも同様な講義があるので)、履修者学生を収容でき、かつ学生が講義に専念できる十分な空間を確保できるように、切にお願いする次第である。

1. 概評

第二部では在籍者が減少し、10人以下の少人数授業が主体であるため、平成19年度後期については履修者10人以上の9科目のみアンケートを実施した。データが少ないため、参考として見て頂きたい。昨年度後期は27科目がアンケートの対象となっていたが、今回は科目数も少なく、単純な比較は困難である。データに関しては、項目3「出席状況」のように昨年度後期と同じ評価となった項目がある反面、すべての項目でポイントが低くなっており、その結果、全体平均で約0.25ポイント減となっている。また今回0.5ポイントと最も減少の大きかったのは、「授業外の自主的学習」に関する項目4である。社会人学生にとって学習時間確保は大きな課題であるが、中には甘えとも取れる姿勢の学生も散見される。時には厳しい姿勢で臨むことも必要であろう。また、「学習環境」に関する項目11については、大学3号館への移転によって大幅に改善されるものと期待される。

[学生]

学習態度は極めて真摯であり、授業中の発言や質問も多く、積極的に授業に取り組む姿勢は窺える。授業時間以外でも熱心に質問する学生も多く見受けられる。反面、授業以外の自主的学習はやはり不十分である。勤務や家事の都合上、学習時間にはかなりの個人差が生じている。学習意欲は認められるが、学習中心の生活が送りにくいのが社会人学生の現状と言えよう。

[授業[内容]]

学生の授業理解度には個人差が大きい。同一授業で初歩的な質問と高度な質問が出されることもしばしばである。授業担当者にとって、授業運営上苦慮する点である。

[授業[教え方等]]

シラバスやプリントの活用は授業進度の把握や授業内容の理解上、不可欠のものである。使用テキストの適正な選択も重要である。さらに、学生個々の理解度、能力を見極めて授業内容のレベルをどこに合わせるかも授業担当者にとっての毎年の課題となっている。

[環境・設備等]

多くの学生は勤務や家事に時間を割かれ、勉学に専念することが困難である。大学図書館は夜間には開館していない。授業時間以外での自主的学習の場を確保することが空間的にも時間的にも困難なのが社会人学生の現実である。今後は学科の図書室の更なる整備などによって、より図書・資料を閲覧しやすい環境の整備が必要であろう。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	(9) 評価と対策
1	3.8	0	0	0	2	4	3	シラバスの確認はまだ不十分である。授業概要を把握するうえで重要なので、学生自身が準備できない場合にも担当教員が用意し、周知徹底を図っている。
2	3.8	0	0	0	1	6	2	学習態度は真摯で、発言や質問もある。学生の多くは積極的に授業に取り組んでいるが、前回に比べ勤務等の疲労からか集中力の鈍った学生がやや目についた。
3	4.0	0	0	0	0	5	4	約7割を占める社会人学生は、勤務等の都合上欠席・遅刻せざるを得ない場合もある。長期履修制度はそうした学生には有効な制度となっている。
4	3.2	0	1	1	4	3	0	最も評価が低いのは前回同様。授業外や自宅での学習には個人差が大きく、勤務と勉学の両立が困難な学生もいる。授業外の学習時間確保は今後とも課題である。
5	3.9	0	0	0	1	2	6	授業内容は概ねシラバス通りであったようである。学生の確認不足や教員の説明不足の場合もあるので、今後も周知徹底を図る必要がある。
6	3.9	0	0	0	1	4	4	授業内容は概ね理解されている。社会人学生にとって仕事や生活に密着した、身近な話題を扱う授業が評価されているようである。
7	4.2	0	0	0	1	0	8	前年度後期及び今年度前期同様、比較的高い評価がなされている。授業内容、使用テキスト、資料、説明を含め、学生の満足度をより高めることが求められる。
8	4.3	0	0	0	1	1	7	前年度後期、今年度前期に続いて評価が最も高い。少人数授業が多いこともあり、授業中に学生が内容確認出来る雰囲気があることもその一因であろう。
9	4.2	0	0	0	0	3	6	概ね高評価であるが、演習や実習系の科目にはばらつきがある。ノートテイクや発表の能力などには学生の個人差が見受けられる。
10	4.2	0	0	0	0	1	8	テキスト、教材、配布資料ともほぼ適切といえるが、テキストの使用頻度が少ない、高価である等の声も依然としてあるので、教材選択には今後も留意する必要がある。
11	4.1	0	0	0	1	3	5	学習環境に対する評価は少人数授業が多いこともあってまずまずである。ただし、昼間部との共用教室については不満の声が寄せられており、要改善である。
12	3.6	0	0	0	2	6	1	前回同様評価が2番目に低い項目。社会人学生の多くは大学図書館を利用しにくい状況がある。教員からの図書資料紹介を密にする必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

〈今後の方針〉

- ①平成19年度文化創造学科夜間主(第二部)のカリキュラムには、一般教養科目も含め144科目が設定されている。一方、在籍者は60人弱であるので、少人数授業が多くなっている。少人数ゆえのきめ細かな密度の濃い授業が展開されている反面、特に英語系、建築系で高度な専門知識やスキルを目指す科目に開講出来ない授業がいくつか生じた。授業時間以外に学習時間を確保することが困難な社会人が多い現状において、これらの科目を夜間に開設することの是非や、昼夜の連携強化など、文化創造学科全体における夜間の位置づけと将来構想について、学科全体の課題として検討する必要があるだろう。
- ②平成19年度は文化創造学科第二部の完成年度に当たる。2年次生に対しては基本的に平成18年度カリキュラムを継承し、現1年生に対しては同学科夜間主コースのカリキュラムを実施して、昼間コースとの整合性のあるカリキュラムを構築する。また、次年度は大幅な科目の統廃合を実施し、学生の在籍数と見合ったスリム化が課題である。
- ③平成20年度は、前年度に文化創造学科が完成年度を迎えることから、学生の実状とニーズをふまえて、昼夜全体にわたるカリキュラムの再構築を実施する予定である。その際、昼夜同時開講科目の拡充によって科目の充実と整理統合を行う。科目によっては昼夜の学生が同一教室で受講することとなるが、夜間主の中心である社会人学生のニーズと能力レベルに合わせた授業内容に配慮する必要があるだろう。社会人にとって学びやすい環境整備は今後とも検討課題であろう。
- ④授業も含めて、学生生活全般にわたってねばり強い学生指導を継続して行くことが求められている。そうしたきめ細かな個別指導は今後ますます重要になってくるものと思われる。それを通して学生の自主的な学習への動機付けも高まるであろう。学生の理解度とニーズの多様化の中で、個別指導の重要性が痛感されるところである。

〈教務部・大学への要望〉

- ① 第二部・夜間主学生には、さまざまな面で個別のサポートを必要とするものが少なくない。クラス主任の役割が重要となる所以である。6・7講時の間の休憩時間は5分しかなく、また6講時開始前では勤務をもつ学生の登校は困難で、クラスルーム等を設定する時間的余裕が無いのが現状である。そのため、掲示やメールで指導、対応しているが、徹底できない恨みがある。クラス主任が学生対応出来るような時間の設定を夜間主コースとしても工夫していきたいので、ご助言をお願いしたい。
- ② 大学当局には環境の整備や美化をお願いしてきた。幸い、平成20年度からは夜間主の教室・教授室が大学3号館に移転することとなり、教室の使い勝手、設備の充実もあって、学生には好評である。

1.概評

全体に特に悪い状況ではないが、学生自身の勉学意欲をもっと高めていく必要がある結果である。

[学生]

前期の方が新学期ということもあり、取り組み意欲は全般的に高い傾向である。後期はやや学生自身の評価は下がっており、前期からの継続的な勉学意欲の維持が課題である。

[授業[内容]]

シラバスで予測した内容であったものの、内容の理解度は若干低い結果である。学生自身の自宅学習が必要であり、科目によっては前回授業の復習を行ってから、次のステップに進むように、授業で工夫をする等の対応も必要と思われる。

[授業[教え方等]]

教員の説明や話し方、声の大きさなどの評価は良好である。

使用機材や配布物などへの評価は、使用教室の環境条件や受講者数などを勘案しなければならないが、特に大きな問題はなく、概ね良好であると思われる。先生方には一層の工夫努力をお願いしていく。

[環境・設備等]

評価は高いので、これを維持するように努めていく。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2.各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	1	3	35	72	19	概ねシラバスを確認しているが、学生にはさらに受講前のシラバス熟読を促していく。
2	3.8	0	0	1	30	63	36	学生の意欲を高めていく努力を引き続き行っていく。
3	4.2	0	0	1	1	14	114	出席に対する評価は良いが、「休まず受講する意欲」を継続するように、折にふれて学生を励ましていく。
4	3.2	0	2	22	80	19	7	学生の勉学意欲が高められるよう、先生方にも授業内容の工夫等、努力をお願いする。
5	3.6	0	0	3	43	64	20	学生には、受講前のシラバス熟読を一層促し、予習につなげていく。
6	3.8	0	0	3	31	53	43	概ね良好ではあるが、学生自身が予習復習を行い授業理解度が高まるように、先生方に指導をお願いする
7	3.9	0	0	1	22	43	64	概ね良好である。
8	4	0	0	1	12	37	80	良好であり、特に問題なし。
9	3.8	0	0	5	28	51	46	概ね良好であるが、さらに先生方の努力をお願いする。
10	3.9	0	0	1	16	53	60	概ね良好であるが、さらに先生方の努力をお願いする。
11	3.9	0	0	3	20	45	62	良好であり、特に問題なし。
12	3.4	0	0	1	89	38	2	良好であるが、さらに努力していく。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

一般教養科目の非常勤教員と常勤教員との間では、今後も、学生の状況などについて情報交換を行っていく。

評価の良い面は引き続き持続できるように努めていく。

1. 概評

学生への周知がうまくいったのか、前年同期よりも改善されている。（後述）

[学生]

学生の出席状況は良好である。4 回以上欠席で失格となることを考えれば、妥当な結果と考えられる。もう少し数字が良くてもよいのかとも考える。

[授業[内容]]

授業内容の理解については概ね問題ない。

[授業[教え方等]]

授業の説明、学生の聞き取り、板書など良好である。

[環境・設備等]

環境に対する評価は良好である。

（各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ 2	2≤ 2.5	2.5≤ 3	3≤ 3.5	3.5≤ 4	4≤	評価と対策
1	3.2	2	16	44	66	55	15	シラバス確認は引き続き良くはない。1 年生は最初から外国語クラスが決まっているため、シラバスの確認をしないものと考えられる。
2	3.8	0	0	1	21	109	67	問題なし
3	4.2	0	0	0	4	36	158	問題なし
4	3.0	0	0	6	73	106	13	他の項目に比べ悪い。自主的学習のために授業でのアドバイスが必要である。
5	3.5	0	0	7	84	92	15	問題なし
6	3.6	0	0	2	29	76	90	問題なし
7	3.9	0	0	2	29	76	90	問題なし
8	4.0	0	0	3	13	67	115	前年同期よりかなり改善されている。各教員の努力によるものか。
9	3.7	0	0	4	47	106	40	問題なし
10	3.8	0	1	3	34	99	60	問題なし
11	4.0	0	0	1	9	85	102	問題なし
12	3.3	0	0	10	146	41	1	図書館に学習コーナーを設置したが、より充実したものにする必要がある。

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

毎年度、前期後期でアンケートを行い、その数字だけに基づいて「良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する」のは難しい。

1. 概評

前の期に比べて、授業改善が進んだという評価状況が認められる。

[学生]

シラバスの確認を行い、積極的に取り組んだ。そのことが自宅に戻ってからの学習量の増大に繋がった。

[授業[内容]]

生徒として学校教育を受けているので、講義内容に思い当たる部分が多いのだろう。理解され易いようだ。

[授業[教え方等]]

講師の方々が、研究一筋ではなく教えのプロでもあるため、資料の作成や提示に工夫があり学習効果が上がっているようだ。

[環境・設備等]

普通教室の視聴覚化が進み、また教育機器を駆使される講師がますます増えるので、学生は好印象を持ってる。

(各項目について、上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。次年度からは前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	4	8	12	4	シラバスの確認が向上
2	4	0	0	0	5	10	13	積極的に取り組んだ
3	4.4	0	0	0	0	2	26	出席はよくしている
4	3.6	0	1	5	7	6	9	授業外の負担が増大した
5	3.7	0	0	2	7	14	5	ほぼ予想通りの内容
6	3.9	0	0	2	3	10	13	理解できた
7	4.1	0	0	1	4	5	18	説明は明解
8	4.2	0	0	1	1	5	21	よく聞き取れた
9	4	0	0	1	3	8	16	板書、PP もよい
10	4.1	0	0	0	5	5	18	資料もよい
11	4.1	0	0	0	3	6	19	環境は良好
12	3.6	0	0	2	8	13	5	参考図書まあまあ揃っている

3. 今後の方針、教務部・大学への要望等

教職課程専門科目を9時から18時までの中に配置せず、土曜日の午後や平日の18時10分からの時間帯に用意し、夜間主はもとより学部の学生も自分の専門科目に忌憚なく時間を割きながら、余力を教職課程履修に注いでもらおうとしている。